

第 20 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要

日時：平成 26 年 3 月 3 日 13：30～15：30

場所：斜里町役場 2F 休養室

出席：松永・山岸（環境省）、梅嶋（オホーツク総合振興局）、岡田・高橋（斜里町）、代田（斜里観光協会）、岡崎（知床ガイド協議会）、若月・松田（引率者代表）、寺山（エコツアー推進協）、佐藤（知床財団）

<概要>

来期のヒグマ活動期の小ループツアーの実施要綱が確定。小ループツアーの実施は、ヒグマ活動期の一部の期間（6・7月のみ）とし、ツアー料金は大人 2,500 円、ツアー時間は 1 時間半、1 日当たりの最大利用者数は、5 月は 385 人、6・7 月は 396 人の設定となった。

登録引率者新規養成の各研修カリキュラムに、ヒグマの危機管理に関する研修が追加され、来期の募集要項が確定した。既存引率者の研修カリキュラムは、実施方法や研修地を中心に協議され、一部の研修については、次回改めて事務局から提案予定となった。

その他、今年度の登録引率者審査部会の会計に関する報告がなされた。

（1）平成 26 年度のヒグマ活動期の運用について（●：主な意見、✓：決定事項）

小ループツアーと当日受付について

- 大半の引率者からは、小ループツアーの料金が 3,000 円以下になることは厳しいとの意見があったが、低料金のツアーの実施を望む地域の声に答える形で、2,500 円で調整した。
- 指定認定機関としても低料金の小ループツアーの実現に協力したい。認定手数料は引き下げることはできないが、当日受付カウンターの実施体制に協力し、採算性を向上させることで支えたい。
- 小ループツアーは事前予約不可の当日受付専用とし、当番引率者によりツアーを実施する。当番引率者へは、知床ガイド協議会が定めた最低金額を配分する共済制度を実施予定。
- 小ループツアーへの参加方法は、大ループツアーへの当日参加と同様に、現地先着ではなく当日の電話予約を対応可能としなければ運営が成り立たない。
- 小ループツアーは当日受付専用としているが、当日の電話予約に対応してしまうと、当日の早い段階で定員が埋まり、電話予約していない現地の希望者がツアーへ参加できなくなる可能性がある。よって、当日の電話予約は実施せず、現地先着順とすべきかもしれない。
- 大ループツアーに関しては、今まで通り当日受付も実施する為、自主的に引率者がフィールドハウスに待機することは有効であり、当日の電話予約も受ける方針でよい。
- ✓ 小ループツアーは 6・7 月の 61 日間限定、1 日最大 4 本実施。ツアー料金は大人 2500 円（小人 1250 円）。ツアー時間はレクチャーを含み 90 分（+15 分）とし、90 分より短縮しない。
- ✓ 当日受付カウンターにて前日予約は対応しない。小ループツアーの当日分の予約は、当日 7：30 より電話受付を可能とする方針で調整。
- ✓ 広報は、小ループの情報を追記したパンフレットや HP、地域説明会、チラシ配布を通じて

実施。パンフレットは、折り目なし A4 サイズ型を 15 万部配布予定。

(2) 平成26年度登録引率者養成について (●：主な意見、✓：決定事項)

新規登録引率者養成研修カリキュラムについて

- 道東地域のガイドを引率者として参入させるためには、基本は知床以外の地域でガイドを行い、必要により登録引率者として活動するスタイルを定着させる必要がある。
- ヒグマを見たら引き返すルールを前提にした研修と、実際のヒグマ遭遇後の対処が異なっていることは問題である。ギャップを埋めるために、ヒグマの事故例を動画等で紹介する危機管理研修をケーススタディーミーティングとシーズン前研修にて行うことを提案する。
- 既存の引率者が新規養成者へ、過去の遭遇例を遭遇場所で伝えることが有効であり、研修 D (または研修 C) にて実施可能では。
- 観光関係者やウトロの主婦らが、危機管理研修のみでも参加可能となれば、ヒグマの基礎的な知識を学ぶ人が増え、結果として、知床の安全環境を作る人材になる事も期待できる。しかし、実際に、危機管理研修の内容を一般へ開放するならば、新規養成研修の一部に参加可能とするのか、もしくは、新たに一般向け講座として開講すべきか整理が必要。
- 研修 G の自主引率回数 (0~8 回) の規定は、基準をある程度明確にすべき。
- ✓ 各研修に、何らかの形で事故想定も含めた危機管理研修を取り入れる。
- ✓ 研修 G の自主引率回数は、ガイド経験等を踏まえて、審査部会で回数を設定する。
- ✓ 新規引率者研修に合宿形式を取り入れる件は、今期は見送るものとする。今後、応募人数が増えた場合は前向きに検討する。

(3) 既存の登録引率者の研修について (●：主な意見、✓：決定事項)

スキルアップ研修 (同行研修) について

- ガイド技術を向上させるスキルアップ研修を毎年実施するのは負担が大きい。
- 知床以外の道東地域を拠点とするガイドにとって、研修地が遠方の五湖である点はマイナスであり、また、プロ意識から、同行研修は不要とみなす意見もある。
- 個人事業主の引率者は、スキルアップ研修を実施することに賛成意見である。引率者資格の取得が、知床ガイドの入門としての制度になる事が望ましい。
- 同行研修の際に確認すべき項目リストの作成や、同行する引率者のペア決め等のコーディネーターが必要である。
- ✓ 既存の引率者研修カリキュラム (資料3-1) の一部を改編。スキルアップ研修の実施場所を知床五湖に限らず、知床及び知床地域といった広域な表現に修正。また、既存引率者が社内内の新人養成者を指導可能となるよう、注釈 (※①②とも、当人が所属する事業所以外～とする) を削除。
- ✓ スキルアップ研修は、審査部会の公式カリキュラムではなく、制度の補強研修として平成26年度から試験的に実施する。試行結果を踏まえて、今後、研修の主体を、審査部会またはガイド協議会のどちらが適切か協議する。
- ✓ 次回部会までに、引率者代表と知床財団が同行研修のマニュアルの素案を作成予定。

(4) その他 (● : 主な意見、✓ : 決定事項)

審査部会の会計決算及び、引率者英語研修について

- ヒグマ活動期運用改定実験の手数料は、利用者から法律に基づいて徴収した手数料ではない為、透明性のある利用が望ましい。
- 引率者への外国語研修は、英語通訳士の資格を持っている元登録引率者の方などを講師として知床五湖に招き、登録引率者らを実際に地上遊歩道で指導することが効果的である。
- 地上遊歩道での説明の際に役立つ、10の英語フレーズなどがあるとよい。
- ✓ 会計決算について、実験の要綱で定めていた内容に基づき、一部、引率者研修費(英語研修)に利用し、残額は翌年に繰り越しとする。今後の支出が見込まれた場合は、利用を検討する。

次回・今後の予定

4月以降に次回審査部会を開催予定。